令和６年能登半島地震被災地へ
教区災害救援ひのきしん隊出動

静岡教区報

第654号

発行所

天理教静岡教務支庁
〒425-0013
焼津市岡当目１番地

TEL (054) 626-1333
FAX (054) 628-4615
Email:skyou@live.jp

教区報は、下のQRコードより、スマートフォン等で、ご覧頂けます。

災害救援ひのきしん隊（以下、災救隊）静岡教区隊（山口志朗隊長）は、本部からの要請により、去る２月２日から５日にかけて令和６年能登半島地震の被災地へ第６次隊として本部隊、石川教区隊、愛知教区隊、静岡教区隊、埼玉教区隊が派遣されたが、静岡教区隊は本部隊と共に珠洲市での炊出し等に加え被災教会関係の屋根の修繕などの支援活動に当たった。

静岡教区隊は２日、山口隊長以下要請された８名が２台の車両で静岡を出発。午後６時には宿営地である珠洲市上戸町の「メルヘン日進堂」に集合。本部隊、静岡隊で合わせて結隊式、冨松基成本部主事（珠洲市隊隊長）を中心に、三幣健志主事、長田勇生主事とミーティングを行った。翌３日より日野布教所、宇出津分教会、個人宅一軒の３件の瓦補修作業、個人宅の片付けに当たった。また、炊き出しとしてシチュー、白米、１５０食の調理をおこない、夕食として飯田保育所で近隣住民の方々に配布。４日も３件の瓦補修、個人宅の片付け、給水作業に従事し、また炊き出しとして豚汁、白米、１５０食分を調理し、飯田保育所で配布に当たった。そして５日最終日には瓦補修、片付け作業に従事し、14時から解隊式を行い、現地を後にした。

今回の出動について山口隊長は「まったく手付かずの状況の中手伝う事ができ、喜んでもらえた事がありがたかった」とコメント。先の長い支援が求められる中、教区隊では本部より出動要請があり次第、随時出動体制を整えている。

立教187年全教一斉ひのきしんデー会場一覧

支部名	月日	開始時間	会　場
東伊豆	4月29日	9:00	熱海　長浜海浜公園
	4月29日	9:00	伊東　オレンジビーチ
	4月29日	9:00	下田　伊豆つくし学園
伊豆	4月29日	9:00	三島総合病院
	4月29日	9:00	伊豆中央ケアセンター
	4月29日	8:30	戸田造船郷土資料博物館
	4月29日	8:30	土肥　駿豆学園
	4月29日	9:00	西伊豆　仁科海岸
駿豆	4月29日	9:30	沼津　千本浜公園
富士	4月29日	9:30	富士　大渕公園
	5月18日	9:30	富士　旭出学園
東駿	4月29日	8:45	清水区　三保真崎海岸
中駿東	4月29日	9:00	城北公園
中駿西	4月29日	9:00	葵区　安倍川・田町親水公園
西駿	4月29日	9:00	焼津　浜当目海岸
	4月29日	10:00	焼津　大井川野鳥公園

支部名	月日	開始時間	会　場
西駿	4月29日	9:00	藤枝　金比羅山　ほたるの里
	4月29日	8:30	島田　大井川公園
	4月29日	6:00	島田　野守の池公園
	4月29日	9:00	島田　牧之原公園
	4月29日	9:00	牧之原　静波海岸
中遠	4月29日	8:30	御前崎　浜岡福祉会館
	4月29日	8:30	森町　森町愛光園
	4月29日	9:30	袋井　久野城跡
	4月29日	9:00	磐田　つつじ公園
	4月29日	9:00	磐田　福田中央交流センター
	4月29日	9:00	掛川　第一中学校
西遠	4月29日	9:30	浜松　発達医療総合福祉センター友愛のさと
	4月29日	9:00	舞阪　白王稲荷山神社（舞阪町稲荷山公園）
	5月4日～6日		凧揚げ会場　清掃
北遠	4月29日	9:00	天竜厚生会

立教187年2月14日現在

青年会ひのきしん隊入隊

教区青年会は3日、おやさとふしん青年会ひのきしん隊に入隊。10名の参加があった。

同会では、平日仕事に従事し、なかなか青年会活動に参加できない会員にも会活動やおぢばでの伏せ込みを実践してもらおうと青年会ひのきしん隊を計画。一日単位で入隊できることから、土日を含んだ日程を組み、県内の会員に声をかけてきた。

出発は、2日夕方。県内を周り、会員を拾いながらおぢばへ向かった。

翌3日は、はったい粉の麦畑に堆肥を撒く作業にあたった。

畑の隅に山に積まれた堆肥をスコップで籠に入れ、麦畑までバケツリレー方式を用いて手作業で散布した。

重労働ではあったものの、おぢばで伏せ込める喜びを胸に会員一同勇み心いっぱいでひのきしんに汗を流した。

4日は、宿泊場所となった百母屋の清掃を行い、帰路に就いた。

期間中、県内出身で本部勤務している会員や天理大学生などが顔を出してくれ、親睦を深めたり、新たな人材の発掘もすることができ、有意義な時間を過ごした。

西駿支部婦人会「会員のつどい」

西駿支部婦人会（岩本久惠・支部主任）では、1月28日（日）島田分教会を会場に「会員のつどい」を開催しました。参加者は148名。

第一部では座りづとめ、主任挨拶の後、母親講座担当者、女子青年担当者からの活動報告。

第二部では茶木谷吉信先生（大江部属・正代分教会長、陽気ぐらし講座講師、認定心理士、不登校相談員、教誨師、玉名市主任児童委員）による「諭達拝読のススメ」と題した講話を拝聴しました。

プロジェクターを使っての、とてもわかりやすいお話しで、会員さんからは、

「私は感謝・慎み・助け合いの心で通っているだろうか、諭達にお示しいただく7つの行動を実践できているだろうか、これを日々ふり返り、一歩一歩楽しんで取り組んでいきたい」

「お話しに引き込まれ、あっという間の90分だった」

「元気をいただいた」等の声が寄せられました。

講話のあとは、手作りのお惣菜をはじめとする食品バザーで賑やかなひとときを過ごしました。

第7回静岡教区三連盟総会

令和2年3月に予定されていた「第7回静岡教区三連盟総会」が、新型コロナ感染拡大により直前に中止となり、4年遅れの令和6年1月31日に開催された。

今回から福祉部も加わり、教務支庁にて26名の参加者で行われた。

午前10時より、親神様、教祖、祖霊様を遥拝して総会が開催された田中俊哉福祉部長の挨拶に続き、欠席の桑高益男委員長のメッセージを榛葉孝一前委員長が代読した。鈴木道輝教区長の挨拶に続いて村田幸喜社会福祉課長からそれぞれ祝辞を頂いた。

村田先生

その後田中福祉部長より教区福祉部活動の報告。三連盟からは、保護司の山口さとみ氏、民生・児童委員の山梨正治氏、教誨師・篤志面接委員の鈴木顕太郎氏が代表として活動の報告をした。伊東広子氏より会計報告が行われ、新しい委員長と委員が発表された。鈴木顕太郎委員長、保護司は桑高益男氏、新村隆浩氏、山口さとみ氏。民生・児童委員は山梨正治氏、前山道広氏、大石道忠氏の各委員が承認された。最後に親神様、教祖、祖霊様を遥拝して総会は終了した。

休憩の後に「天理教の社会福祉とおたすけ」と題して村田幸喜氏（本部准員・満州眞勇分教会長）からお話を頂いた。天理教の福祉活動は他の宗教団体と比べても充実していて奥が深い。それは「一れつきょうだい」と「陽気ぐらし」の教えを、教祖ご在世の頃から実践してきたからである。困っている人がいたら手助けをする、という教祖の教えを素直に実行する姿がおたすけであり、福祉活動でもある。現代社会では課題が多種多様であり、孤立している人増えている。私たちはようぼくとして、まず相手をありのまま受け入れることが大切である。それは、人智を超えた存在を信じる人でないと出来ないことである。

「すべては親神様の御用・万事はたすけ一条で務めるところに親神様が働いて下さる」と自身のおたすけの体験を通してお話しいただいた。

総会終了後は記念撮影を行い、懇親会が開催された。4年振りの総会でもあり、会員同士積もる話があり、お開きの時間になるまで親しく懇談する姿が見られた。新たな体制での活動を期待し、次回は今回以上の出席数で総会、勉強会ができることを目標に解散した。

（伊東広子記）

春の学生おぢばがえり 3/27~29

要項

参加費　10,000円
宿　泊　山名詰所

申込

下記の問い合わせへ

日程

27日　おぢばへ出発
開講式など

28日　式典参加
直属アワー
他教区交流会

29日　おぢば出発
お楽しみ行事
帰宅

問い合わせ　☎ 090-1479-7369　岡野多吉委員長

天理大学ふるさと会支部総会

天理大学ふるさと会静岡支部（鈴木顕太郎支部長）は、1月28日、第3回総会を開催、県内の天理大学卒業生28名が教務支庁に集った。

当日は、おぢばより太田登ふるさと会会長を迎え、午前10時30分より芹澤常太郎主事の開会の辞の後、郷内一衛支部役員が司会をつとめ、鈴木支部長が議長として選出され、永井磨支部役員より会計報告、中村末男監査役から監査報告がなされた。引き続いて役員の改選と今般、天理医療大学の天理大学への合併に伴い、医療大学の前身となった、天理医学技術学校、天理高等看護学院、天理看護学院出身者も会員となったことから、静岡支部においても規約附則追加承認の動議がなされ、全会一致で可決された。議長解任に続いて鈴木支部長が挨拶を行い、今後静岡支部が目指す活動の所信が述べられ、太田会長より祝辞が述べられた。最後に大池藤次副支部長より閉会の辞が述べられた。

太田会長

久松氏

休憩を経て、現在、国内外の映画やドラマで高い評価を受けている脚本家久松真一氏（天理大学フランス学科卒業）による「創造、そして感動」と題した記念講演が行われた。

久松氏は、天理高校から天理大学に進学。大学在学中に脚本家倉本聰氏の作品と出合い、大学卒業後、天理教道友社勤務を経て、倉本氏主宰の脚本家・俳優養成所「富良野塾」で2年修行の後TBSより脚本家としてデビューを果たされた。講演では脚本家になった経緯や、一昨年前にNHK－BSテレビで放送された「生きて、ふたたび　保護司　深谷善輔」を執筆するにあたって鈴木支部長との出会い、制作秘話やそこに掛けた思い、また自身の信仰を深めることとなった同級生へのおたすけの話、教祖百二十年祭時に制作した舞台「扉開いて」などが赤裸々に披歴され、脚本家として「陽気ぐらし」を目指して生きる喜びを伝えるべく「感動与えたい」、教祖はどんな苦しい時でも守り導いてくださり、生き直しができるのだと信じて突き進んでいきたいと締めくくられ、参加者一同、感激に包まれた。

その後、食堂にて太田会長、久松氏を囲んで和やかに懇親会が行われ、大学在学中の思い出を語り合うなどして親交を深めた。

中駿西支部おつとめ総会

2月2日、志静分教会を会場に「立教百八十六年度おつとめ総会」をつとめさせていただいた。

昨年同様に、教会長夫妻、布教所長夫妻を対象として座りづとめと前半下りを総立ちにて、17名の参加者で勇んでつとめさせていただいた。コロナ禍以前のように、支部内ようぼく・信者に広く声をかけてつとめさせていただくという形ではないものの、続けていくことを大切にして、いずれは支部内挙げての賑やかな行事に戻していきたいと思っている。

「情報ねっと」より転載